

関連項目：指導体制プラン②

## 重点指導の4本柱を中心とした日常指導の推進

### 目的

- 自らを律することのできる子どもを育成するために、①あいさつ運動 ②廊下歩行 ③縦割り清掃 ④言葉遣いを重点指導の4本柱とし、めざす子ども像に迫る。

### 内容

#### ● あいさつ運動

本校では、登校班による集団登校を行っている。登校時には正門と西門に児童会とスマイル委員会の当番児童が立ち、7時30分から15分間、あいさつ運動を行っている。保護者手作りのタスキをかけ、「大きな声で気持ちの良いあいさつをする」こと、「止まってくれた車にお礼を言う」こと、「通行中の車にもあいさつをする」ことを念頭にがんばっている。



#### ● 廊下歩行

廊下や階段の安全な歩行習慣を定着させるために、廊下の中央ラインを黄色のテープで表示し、右側を意識できるように「右」の表示を校内廊下に貼りつけている。しかし、なかなか「右側を歩く」習慣形成には至らず、走る者や中央部や左側を通っている者がおり、課題となっている。



#### ● 縦割り清掃

1学期から異学年の児童で行う縦割り清掃を行っている。この取組を通して、能率的な清掃の仕方や態度を上級生から学び、良い清掃態度を全校に広め、定着させたいと考えた。低学年は上級生から掃除の仕方や掃除に対する姿勢を学び、上級生は、下級生にきちんとさせることの難しさを感じながら、リーダーとしての自覚が育ってきている。

低学年の子は、大きなほうきでうまくはけないことが分かった。ほうきを小さい物にすると、きれいにできた。

#### ● 言葉遣い

相手を尊重し、やさしい気持ちを素直に伝えるために「〇〇さん」という呼び方を奨励している。低学年では、男女を問わずかなり定着して来ている。しかし、高学年になるに従い、呼び捨てや乱暴な言葉遣いになりがちである。

ぼくたち3年生は、いつも友だちをさんづけでよんでいます。やさしいことばで言うのでいいです。

### 成果

こうした取組を継続することで、学校の生徒指導の4本柱（あいさつ運動、廊下歩行、縦割り清掃、言葉遣い）が児童に浸透し、少しずつ改善されている。今後は、廊下歩行や言葉遣いを重点として取り組みたい。